ＪＳＴ、さくらサイエンスクラブ
「第２回ネパール同窓会」カトマンズで現地開催

科学技術振興機構（ＪＳＴ）とさくらサイエンスクラブネパール同窓会は９月２日、ネパール・カトマンズにおいて第２回同窓会を共催した。ネパール同窓会は、２０２２年１月に同窓会立ち上げのためのオンラインミーティングが開催された。そのミーティングを足がかりに22年４月16日に第１回同窓会をオンラインで開催。コロナ禍以降、今回は待望の現地開催となった。

◎同窓会概要

会は同窓会幹事であるパビトゥラ・バンダリさんが進行役を務めた。はじめにネパール同窓会の幹事長であるスマン・ドゥン・シュレスタさんから開会の言葉があり、その後、ＪＳＴさくらサイエンスプログラム（ＳＳＰ）推進本部の黄鴻堅アドバイザーがＪＳＴを代表して、挨拶を行った。挨拶の中で、現在日本に留学しているネパール人留学生の数は２万４０００人以上に上り、全留学生数の10％を占めており、「ネパールは日本にとって、留学生由来の重要な国だ」との指摘があった。

初の現地開催となった「ネパール同窓会」。同窓会参加者ら

その後、来賓として、菊田豊駐ネパール特命全権大使、ネパール教育省のバラル・クリタン・ラジ事務官、日本留学同窓会ネパールエグゼクティブメンバーでミッドウエスト大学名誉教授のディネッシュ・ラジ・ブジュ氏より挨拶があった。菊田駐ネパール大使は挨拶の中で、ＳＳＰに参加した同窓生の自発的な行動で、ネパール同窓会が発足したことを歓迎し、違った文化背景を持った若い世代が交流することは価値観を豊かにすることに繋がり、またＳＳＰはネパールの学生が知識、世界観、将来の選択肢を増やすことに貢献していると表現した。バラル事務官は、ネパールと日本の関係について言及しながら、ＳＳＰが国境を越えた交流を提供していることについて評価し、教育省として今後ともＪＳＴとの関係を維持していきたいと話を結んだ。

ディネッシュ氏は、自身の実体験を交えながら、日本との関わりについて説明し、ＭＥＸＴスカラシップで千葉大学に留学した際、ヒマラヤの生態学調査に参加したエピソードなども紹介した。また日本での経験が自分の科学者としての基礎を作ってくれたと述べ、ＳＳＰは日本へのゴールデンチケットであると表現した。

来賓挨拶のあとには、同窓生からのＳＳＰを通した実体験、および自身の研究分野などについて資料を用いたプレゼンテーションや、口頭発表などが行われた。

◎参加者の声

参加者からは、「非常に有意義な時間だった」「ＳＳＰに参加したことを思い出し、より強く記憶した」「初めて対面であえたことに感謝する」「ゲストスピーチに非常にインスパイアされた」「同窓生のシェアリングセッションは、包括的で有益だった」「他の同窓生が日本で体験したことが聞けてよかった」等の声があった。

菊田駐ネパール大使